

基礎から学ぶ質問紙法

東 正訓（追手門学院大学）

認知心理学を研究するためには実験法だけ習熟すればよいとはいえないようです。実験法を中心に、質問紙法や事例研究法など必要に応じて組み合わせることで研究の幅が広がり、チャレンジングなテーマも開拓できます。

このセミナーでは、質問紙法の基礎から説明し、「こんな場合はこうすればよい」といった実践的ノウハウを理由とともに示していきます。具体的内容は次の通りです。

質問紙法の特徴（利点と課題、構成概念と多項目加算尺度、信頼性と妥当性）、対象者に応じた質問紙の工夫（倫理的配慮と説明文、対象年齢と選択肢（枝）の表現、「どちらでもない」の扱い、ワーディング、項目・概念・潜在変数の適切数）、計画の立て方（定番理論図式の拡張法、独立変数として尺度を利用する時の留意点、計画するうえで避けたい3つのエラー）を予定しています。質問紙法に頼る性格、態度などの特性理論が認知神経科学との接点を求めている現状もふくめてお話ししたいと思います。

jsPsych を使ってウェブブラウザで心理学の実験や調査をやってみよう

黒木 大一郎（九州大学）

本発表ではプログラミングの経験があまりない方、またはウェブ環境で実験や調査を行うことに興味のある方を対象として、de Leeuw (2015) が公開した JavaScript のライブラリ（プログラミングを容易にするための道具）である jsPsych を紹介する。

近年、インターネットを経由して多数の実験参加者を募ることが多くなり、それに伴いウェブブラウザで動作する実験プログラムを作るという需要が増えてきた。そのようなプログラムは JavaScript を使用すれば作成することができるが、そのためには JavaScript に関する多くの知識が必要不可欠であった。jsPsych を使用すれば、JavaScript の知識がそれほどなくても実験プログラムを容易に作ることが可能である。本発表では jsPsych の使用方法を簡単に解説したのち、研究室で行う従来の実験と比較して特にウェブ実験で注意すべき点についても言及する。

参考 URL

- ・ jsPsych の公式サイト <http://docs.jspsych.org/>
- ・ 発表者による解説サイト <https://sites.google.com/site/webdeshinri/>

PEBL を利用した簡便な心理実験環境の構築

前川 亮（追手門学院大学）

近年、パソコンを用いた心理実験が一般的になり、それに伴って刺激呈示やデータの収集を容易にするためのライブラリが数多く公開されてきている。PEBL（The Psychology Experiment Building Language）はその中では比較的マイナーであると思われるが、基本的な心理実験のライブラリが充実しており、簡便な実験の実施において優れている。セミナーでは、PEBL の導入と実装済みの実験の実施方法を説明し、最後にオリジナルの実験の作成について少し紹介したい。

【特徴】

- ・ 無償
- ・ クロスプラットフォーム（Windows, OS X, Linux）
- ・ 100 以上の基本的な心理実験が最初から用意されている

【最初から用意されている実験】

PEBL には多くの基本的な心理実験が最初から入っており、ソフトのインストール後ただちに実験を始めることができる。その際に呈示時間や刺激の数など実験ごとの基本的なパラメータは GUI を用いて設定することができる。現時点で約 100 個の基本的な心理実験が実装されている（例：ウィスコンシンカード分類課題、サイモン効果、ミュラーリヤー錯視、短期記憶課題、ロンドン塔課題、トレイルメイキングテスト、ストループ課題、アイオワ・ギャンブル課題、視覚探索）。